

只見の歴史を探る⑤

速報！

宮前遺跡発掘調査

今年六月から役場新庁舎の建設予定地となる旧只見中学校の校庭で発掘調査をしています。ここは宮前遺跡と呼ばれている遺跡地で、『図説会津只見の歴史』や『只見町史』『只見学ガイドブック』にも掲載されています。いままでに首飾りにする管玉や小玉が発見されていて、約一三〇〇〜一七〇〇年前の古墳時代の遺跡の可能性があるとされてきました。昨年度行った試掘調査で遺構(昔の痕跡)や遺物(土器や石器など)が発見されたことよって、今年度から本格的な発掘調査が始まりました。

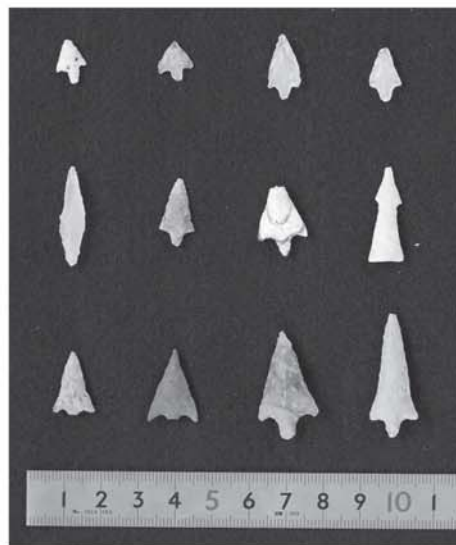
▲ 宮前遺跡の発掘現場

▲ 宮前遺跡の発掘現場

▲ 宮前遺跡の発掘現場

と考えられます。遺構では、縄文時代晩期から弥生時代前期と推定できる土坑がたくさん見つかりました。土坑とは、柱穴よりも大きく、使用用途が見極めにくい穴のことです。小さいもので長径八〇cm、短径六〇cm、大きいものでは長径二〇〇cm以上、短径一〇〇cm以上のものも確認しています。深さは、もつとも深いもので一五〇cmもありました。残念ながら住居跡は確認していません。また、明治期と考えられる水田跡を確認しました。

遺物の特徴としては、石器類がたくさん出土することです。石鏃(ヤジリ)：弓矢の先に付ける道具)や打製石斧(磨いていない欠いただけの斧)、磨製石斧(磨いてある斧)、石槍(ヤリ)、石錐(キリ)：穴をあける道具)、磨石(木の实などを磨りつぶす道具)、黒曜石(広報只見五月号参照)、平玉(首飾りにするもの)などが発見されました。ヤジリについては、玉髓と呼ばれる白く透明な石材を使っているものが非常に多く出土しました。お



▲ 多量に発掘された石鏃

そらく伊南川や只見川で採取した石材と考えられます。ヤジリの大きさもさまざまで、一番小さいもので長さ三mmくらいしかないものもあります。平玉については、ヒスイ製と考えられるものが四点あり、新潟県から流通したのではないかと考えられます。平玉が出土するということは、お墓などの副葬品の可能性が考えられ、近くに墓域(お墓の集まった場所)がある可能性もあります。遺物がたくさん出土するということは、それだけ大きな集

落があつたと考えられます。現在、発掘調査している場所に住居跡は確認していませんが、周辺には居住域があると推定されます。また、石器が多く出土することから、石器工房のようなものが存在するのかもしれない。黒曜石については科学分析を行えば、流通経路がわかると思います。

宮前遺跡は降雪前まで発掘調査をする予定です。見学は随時受け付けますので、ぜひ見学に来てください。